

# 音楽科の研究

## 1 音楽科で目指す子ども

音楽を形づくっている要素（以下：要素）を手掛かりに、試行錯誤をしながら音楽表現や鑑賞の仕方を追求する子ども

音楽科では、音楽的な感受の能力を育てるために、要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、反復、変化等）を聴き取り、そのよさを感じ取り、思考・判断・表現する一連の過程を大切にしている。また、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさを考えたりしていくことが求められている。

当校でも、要素を手掛かりに「見方・考え方」を働かせて、自分が曲の特徴にふさわしいと感じる表現を試しながら音楽表現を工夫する子どもの姿、音楽を聴いて自分にとっての音楽のよさを見いだす子どもの姿を目指す。

このように、自分の感じ方を大切にしながら音楽表現や鑑賞の仕方を追求していくことで、子どもは、音楽に対する感性を豊かにしていく。そして、生活の中の音楽に楽しさや喜びを感じながらかわり、生涯にわたって様々な音楽文化と豊かにかわることができる素地を身に付けていくのである。

## 2 豊かに考える子どもを育む授業づくり ○ 第4学年：音楽づくり

要素の働きを生かした表現を考え、イメージに合った音楽をつくる子ども

目指す姿を具現するため、次のように題材を構想する。

まず、音楽をつくりたくなる文脈を設定し、音楽づくりに興味をもたせる。

次に、要素が違う音楽のモデルを2曲提示し、比較聴取させる。要素とその働きの違いによって感じるイメージ（場面や情景等）が違うことに気付かせるためである。モデルの2曲は、着目させたい要素のみに違いがある。この要素の違いに気付くことで、子どもは「見方・考え方」を働かせ、イメージの違いを感じ取るのである。子どもは、「自分でもイメージに合わせて音楽をつくってみたい」と、問いをもつ。

そして、どんな表現の工夫ができそうかを問う。子どもは、「見方・考え方」を働かせ、とらえた要素の視点で表現の工夫を考え、工夫の見通しをもつ。見通しをもった子どもは、その後の音楽づくりに意欲的に取り組むのである。

また、ある程度音楽をつくった子どもに、中間発表会を提案する。その際、自分の作品を振り返らせたくて中間発表をさせる。振り返ったことで自分の作品を自覚している子どもは、自分の作品と友達の作品とを比較聴取し、よりよく表現するための新たな工夫の視点に気付く。そして、どのように音楽をつくるかについて考える力を発揮するのである。

最後に、完成した作品を振り返らせ、発揮した資質・能力を自覚させていく。

このような一連の学習を通して、子どもに「見方・考え方」を働かせ、想定した資質・能力を発揮、自覚させることで、目指す姿を具現する。

### 3 音楽科の学習で働かせる「見方・考え方」

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
見方・考え方	○音や音楽を、要素とその働きの視点でとらえ、とらえたことと自己のイメージとを関連付けること		

### 4 音楽科で育成する資質・能力

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
① 知識・技能	<p><b>【表現】</b> ○歌唱表現の知識・技能（曲想と歌詞とのかかわりの気付き、聴唱、模唱、暗唱、歌声及び発音の仕方、声を合わせること） ○器楽表現の知識・技能（曲想と構造の気付き、音色と奏法の気付き、聴奏、視奏、音を合わせること） ○音楽づくりの知識・技能（声や様々な音の特徴の気付き、音やフレーズのつなげ方の特徴の気付き、即興的な表現、仕組みを用いた簡単な音楽表現）</p> <p><b>【鑑賞】</b> ○曲想と音楽の構造とのかかわりについての気付き</p>	<p><b>【表現】</b> ○歌唱表現の知識・技能（曲想と構造や歌詞とのかかわりの気付き、聴唱、視唱、呼吸及び無理のない発声の仕方、声を合わせること） ○器楽表現の知識・技能（曲想と構造の気付き、音色や響きと奏法の気付き、聴奏、視奏、音を合わせること） ○音楽づくりの知識・技能（響きや組合せの特徴の気付き、音やフレーズのつなげ方・重ね方の特徴の気付き、条件に基付いた即興的な表現、仕組みを用いた音楽表現）</p> <p><b>【鑑賞】</b> ○曲想及びその変化と、音楽の構造とのかかわりについての気付き</p>	<p><b>【表現】</b> ○歌唱表現の知識・技能（曲想と構造や歌詞とのかかわりの理解、聴唱、視唱、呼吸及び無理のない発声の仕方、声を合わせること） ○器楽表現の知識・技能（曲想と構造の理解、多様な音色や響きと奏法の理解、聴奏、視奏、音を合わせること） ○音楽づくりの知識・技能（響きや組合せの特徴の理解、音やフレーズのつなげ方・重ね方の特徴の理解、条件に基付いた即興的な表現、仕組みを用いた音楽表現）</p> <p><b>【鑑賞】</b> ○曲想及びその変化と、音楽の構造とのかかわりについての理解</p>
	<p>○音楽を形づくっている要素及びそれらにかかわる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きとかわらせて理解される知識</p> <p><b>【音楽を形づくっている要素】</b> ア 音楽を特徴付けている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ等） イ 音楽の仕組み（反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係等）</p>		
② 思考力・判断力・表現力	<p><b>【表現】</b> ○曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うか（演奏するか）について考える力 ○音遊びをとおして、音楽づくりの発想を得る力 ○どのように音を音楽にしていこうかについて考える力</p> <p><b>【鑑賞】</b> ○曲想と音楽の構造とのかかわりとらえる力</p>	<p><b>【表現】</b> ○曲の特徴をとらえた表現を工夫し、どのように歌うか（演奏するか）について考える力 ○即興的に表現することをとおして、音楽づくりの発想を得る力 ○音を音楽へと構成することをとおして、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて考える力</p> <p><b>【鑑賞】</b> ○曲想及びその変化と、音楽の構造とのかかわりとらえる力</p>	<p><b>【表現】</b> ○曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うか（演奏するか）について考える力 ○即興的に表現することをとおして、音楽づくりの様々な発想を得る力 ○音を音楽へと構成することをとおして、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて考える力</p> <p><b>【鑑賞】</b> ○曲想及びその変化と、音楽の構造とのかかわりを理解する力</p>
	○音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととのかかわりについて考える力		
③ 態度	○楽しく音楽にかかわり、協働して音楽活動しようとする態度 ○身の回りの様々な音楽に親しもうとする態度 ○音楽経験を生活に生かそうとする態度	○進んで音楽にかかわり、協働して音楽活動しようとする態度 ○進んで様々な音楽に親しもうとする態度 ○音楽経験を生活に生かそうとする態度	○主体的に音楽にかかわり、協働して音楽活動しようとする態度 ○主体的に様々な音楽に親しもうとする態度 ○音楽経験を生活に生かそうとする態度